

1 学校教育目標と重点目標

学校教育目標
<p>教育基本法ならびに学校教育法の精神に則って、次の目標を達成することに努める。</p> <p>(1) 人格の形成をめざし社会の一員としての必要な資質を養うため、教養を高める。</p> <p>(2) 日本の工業の構築発展を支える技術者として、地域に根ざした教育活動から、技能・知識・態度を修得する。</p> <p>(3) 本校の伝統の校訓 「質実剛健」、「至誠一貫」、 校是「技術者たる前に 人間たれ。」の精神を涵養する。</p>
重点目標（中・長期的目標）
<p>地域社会から求められる生徒を育成し、より魅力有る工業高校の姿を求める。</p> <p>(1) 学力の一層の向上に努める。</p> <p>(2) クラブ活動の充実と活性化に努める。</p> <p>(3) 地域との連携により、社会に連動した魅力と活力のある学校づくりに努める。</p>
今年度の重点目標
<p>(1) 生徒の学力を伸ばし、進路実現へとつながる教育</p> <p>ア 観点別評価のフィードバックと授業改善による個に応じた指導と学力の向上</p> <p>イ 授業公開・参観による教員の資質・能力の向上</p> <p>ウ キャリア教育の充実による、社会を担い貢献できる生徒の育成</p> <p>エ コミュニケーション能力や情報活用・発信能力に優れた人材の育成</p> <p>(2) 生徒一人ひとりが、安全で生き生きと充実した高校生活をおくる環境づくり</p> <p>ア 挨拶の励行、清掃の徹底による学習環境の整備（5Sの徹底）</p> <p>イ 各種コンテスト、資格取得や技能検定の情報提供と積極的な挑戦への支援</p> <p>ウ 生徒会活動、部活動の一層の充実・発展</p> <p>エ いじめ、体罰のない安心安全な学校</p> <p>オ 支援を必要とする生徒や悩みを抱える生徒への相談・支援の充実</p> <p>カ 情報モラル・Iot教育の計画的な指導（HR, 学年, 生徒指導, 進路指導 連携）</p> <p>(3) 地域に根ざし、地域の期待に応える、開かれた学校づくり</p> <p>ア 学校開放・地域貢献・地域連携・地域活性化・ボランティア活動への取り組み</p> <p>イ 国・県の指定事業、各種団体の助成事業の積極的な活用</p> <p>ウ 広報活動の強化（HP等による積極的な紹介、工業高校の存在意義の再確認）</p> <p>エ 小中学校におけるものづくり教育の連携</p> <p>オ 本校の将来構想について検討の推進</p> <p>カ 近隣地域の清掃活動</p> <p>キ 地域の子どもたちから「あこがれの岡工生」としてみられる生徒の育成</p>

2 評価項目と評価の観点

領域	対象	評価項目	評価の観点	内部評価	成果と課題	外部評価
教育活動	教育課程	教育課程の検討	新学習指導要領への移行に対応した教育課程が編成できているか。また現行の教育課程は本校の教育目標および地域の期待に応えるものであるか。	A	ZOOMによる高等学校教育課程研究協議会（県教委：学びの改革支援課主催）に参加。（9月6日・9月7日・9月13日・9月14日のべ11名）国語 地歴・公民 数学 理科 保健体育 音楽 外国語 家庭 情報 工業 総則・特活の各部会では、新学習指導要領の理解・授業改善・観点別学習状況評価の研究協議をそれぞれ実施。令和4年度入学生向けの学習指導要領への移行に備え、教育課程の研究・検討とその具現化を進めている。	B
		選択科目の計画	選択科目の設置は生徒の実態に即したものであるか。また次年度に向けて生徒の希望に沿った選択科目の計画が行えたか。	B	令和4年度選択科目計画書の新規見直し。（9月8日職員会議提案）2学年会との連携の基に、より良い選択科目を行うための生徒指導と家庭連絡（10月7日）選択科目説明会の実施。（2学年一斉集会：10月14日LHR時 第2体育館）以後継続的に係と2学年会での審議・調整を行い、進路実現に向けた科目選択を進めた。現在選択科目の割り振りが円滑に終了し、講座名簿の作成等の庶務的作業を行っている。	A
		シラバスの作成	学習内容を精査し、実用的なシラバスを作成することができたか。またシラバスに沿った授業を計画的に実施することができたか。	A	本校での学びの現状を把握し、職員相互の共通理解を深めた上で、シラバスの沿った授業を展開することができた。中間期までは学習指導係の業務との連携を図り、新学習指導要領の実施および移行に向けた研究協議を積み上げることで、職員集団の共通理解と意識を高めるよう務めた。現在は新年度の準備を本格的に進めており、特に新1学年では「評価の観点の趣旨」と「シラバスの評価の方法」をリンクさせる「岡工版シラバス」の作成を計画的に行い、4月以降HPでの一般公開と本格的な実施に備え活動している。	A
	学習指導	学力の向上	学力の把握と観点別評価により、学びの課題を明確にした上で、生徒の声に耳を傾け実態に即した学習活動を展開することができたか。	A	係の活動方針と業務計画を明示し、学習指導方針への共通理解を深める提案を行った。（4月14日職員会議）内規の沿ったテスト監督の手引きの見直しと指導体制の確認。（5月12日職員会議）進学者向け夏季講習の計画と実施。（数学・物理・英語：大学受験対策講座7月）学びの指標アンケートの実施（全生徒対象6月及び12月（年2回）：スマートフォンを利用した学習アンケートを集約・分析）生徒向け授業アンケートの実施。（全生徒・全科目対象7月および12月（年2回）：のべ30000数の回答データを集計・分析）学びの改革支援課主導の教員向け「学習評価研修会」（ZOOMによる）の実施。（4月23日・7月8日・9月21日の3回：約6割の教職員が参加）教育活動におけるPDACサイクルを活動し、生徒からの評価や要望をフードバックし工夫改善する取り組みを教職員に促した。	A
		家庭との連携	適切な説明責任を果たすことで、本校の学びに対して保護者の理解を求め、家庭との円滑な連携を図ることができたか。	A	新入生の保護者を対象に、学習＋部活動・資格取得が岡工生活の両輪であることを強調し、本校の学習指導方針に対する理解を求めた。（4月6日入学式保護者説明会）PTA地区懇談会において、本校の学習指導への理解と協力を深めるための資料作成と懇談説明を実施。（6月以降のべ12地区にて実施）7月および12月に開催される保護者懇談会に向けて、成績不振者とその保護者に、より適切な説明責任を果たすための教科連絡票の活用を徹底した。これにより担任からの指導に加えて各生徒および各教科の担当者からのアドバイスを直接伝え、家庭との連携を高めた。	A

領域	対象	評価項目	評価の観点	内部評価	成果と課題	外部評価
教育活動	学習指導	資格取得の推進	各種資格取得の管理・運営をとおして、生徒の意欲的・自主的な活動を支援することができたか。	A	資格取得一覧表（のべ60種類の資格）を作成し、年度内に予定される資格取得の詳細と計画を提示。（5月12日職員会議） 学習指導係主導による3年生を対象とした技能講習会の計画と運営。 （高所作業車・フォークリフト：7月3日～7月25日。休日のべ10日間）各学科共通で取り組む、計算技術検定（6月・11月）及び情報技術検定（6月・11月）の計画・運営・総括。 現在、本年度1年間の資格取得資格取得実績（合格率を含む）を調査・集計中し、情報公開する準備を行っている。特に難易度の高い資格においては、本校を志願する生徒からは、「この資格を取るためには、この学科に入学と有利だ」といった具体的な声もある。そのため各学科の高い専門性を活かした資格取得への取り組み強化は、今後も岡工の将来に重要なパラメータであることが推測される。	A
		開かれた学校づくり	本校の教育活動を理解してもらうために、保護者・中学生・地域等に向けて、適切な情報発信と働きかけができたか。	A	春季公開授業の立案。（4月29日に予定：コロナ禍の影響により、やむなく中止） 秋季公開授業の計画と実施。（10月11日・12日：全196講座の公開：2日間でのべ132名の見学者が来校） 授業アンケート結果の公開（9月・1月：岡工ホームページにて公開）開かれた学校づくりの取り組みは、コロナ禍の影響により様々な行事が縮小・変更されたこともあり、地域へのアピールや発表・発信の機会が減っている。	A
	生徒指導	家庭との連携	家庭や学校生活での行動の変化等の心配事や、事件・事故・問題行動発生時等に速やかに対応できるように家庭との連携が取れているか。	A	入学式・地区PTA・保護者懇談会を通して、本校の生徒指導の基本方針を保護者へ説明することができた。問題発生時には、関係部署と連絡を取り合い、保護者に説明し情報を共有しながら対応している。	A
		生徒への意識啓発	校外で起こりうる事件・事故に対して正しく対処するにはどうしたらよいか考えさせ、また、常識ある行動を取れるように指導したか。	B	集会時など機会あるごとに生徒全体に注意喚起を促し、自ら問題点を明らかにし、高校生としての自覚ある行動がとれるよう指導している。自転車事故については、警察とも密接な連携をとっている。また、SNSに関する事案については、情報モラル教育の一環としてネット使用にあたっての危険性や留意点について学習を行った。	A
		相談体制の充実	生徒が相談しやすい校内体制を整備し、それが安心安全な学校生活につながったか。	B	多様化が進む生徒たちの状況把握に努めるとともに、必要に応じて担任、養護教諭、そして教育相談および特別支援の各コーディネーターが状況により相談相手となっている。特に注意が必要な場合は生活指導が慎重に対応している。	A
		手続きのアカウントビリティ（説明責任）	生徒指導上の「指導」において、その根拠や手続きについて生徒や保護者に十分な説明と理解がされているか。	A	様々な場面で発生する問題行動への対応は個々の生活環境や家庭環境によって異なるため、その都度係内で検討しながら最善の策を模索している。実際の指導に当たっては保護者が納得した上で協力してもらえるような環境作りをして取り組んでいる。	A
		職員協力体制の確立	日常の生徒指導において、全職員の協力体制ができているか。	A	生徒指導は全職員が情報を共有し進めていかなければならない。従って、職員が同じ認識をもち、同じ指導をすることが必要である。科・係・学年など関係した部署で連携を取りながら取り組んでいる。問題発生時の連携は特に慎重に実施している。	A
	進路指導	進路希望に応じた進路の実現	生徒への進路情報の提供及び進路相談業務を通して、生徒の希望・能力・適性に応じた進路がかなえられるよう指導援助できたか。	A	3年については、7月の保護者懇談会にて最終の進路希望を確認した。採用状況は1月末日時点で、企業への就職希望者全員97名が内定をいただくことができた。公務員は7名が合格した。進学希望者は、国公立大学2名を含め78名が合格している。進路が確定していない生徒に対し、希望する進路が実現するよう担任、保護者と連携し進路指導を実施中である。	A

領域	対象	評価項目	評価の観点	内部評価	成果と課題	外部評価
教育活動	進路指導	進路情報の収集	入試説明会や学校訪問に参加し、また、事業所訪問や求人票の受付業務等を通して、より詳細な情報提供ができたか。 生徒が情報を得やすいように進路指導室および進路資料室を整備できたか。	A	今年度は、6月に2,3年生は会社学校見学を実施することができた。3年生については6月に企業研究会・進学相談会参加や本校体育館を会場に岡谷市合同企業説明会の開催など進路情報の収集に努めることができた。1,2年生についても、12月に進路相談会や岡谷市主催の企業研究会へ参加を促し情報収集の機会を設けられた。また、内定後も企業を訪問し他校も含めた今年度の状況や、来年度への課題等をまとめ、1,2学年担任に伝え、生徒へも情報提供を行っている。	A
		職業意識の形成	適切な進路計画の設定・実施を行ったか（インターンシップ・事業所見学・進学ガイダンス・模擬試験・進路講話など）。	B	コロナ禍の中、2年生でのインターンシップや諏訪メッセへの見学等が今年も中止になった。しかし、代替えとして、地元企業を招いての講演会に加え模擬就職活動（事前事後学習を含め10時間）を実施した、また、各学年で進路ガイダンスを実施している。これらの取り組みを進路選択や職業選択にとって重要な行事ととらえ、生徒の職業意識の形成に努めた。	A
特別教育活動	生徒会	生徒の自主活動	自主的、主体的な生徒会活動にできるよう本部役員が企画運営を考え活動する中で、達成感や充実感を得ることができたか。また、全校生徒が生徒会活動に対して意識を向上させることができたか。	B	今年度も例年通りの生徒会活動が厳しい状況ではあったが、感染症対策を考慮しながら生徒会行事を遂行するために主体的な活動が行えた。全校生徒を体育館に集める予定だった生徒総会などの行事については、事前撮影した映像やライブ配信によって各クラスごとに分散して実施した。トラブルもあったが、今後もコロナ対策の一環として実施していきたい。また外部団体との関わりでは、岡谷市町づくり会議で岡谷市の将来を高校生の視点で意見交換し、実現に向けて取り組んでいる。7月に地元飲食店の応援活動としてテイクアウト事業を誘致し、本校で弁当の販売を行った。12月には文化祭Tシャツの売上げを岡谷市へ寄付した。学校外の活動で得られた刺激を生徒会行事等に還元していきたい。	A
		部活動の充実	部活動に入っている生徒が日常のクラブ活動を充実させ、各クラブや各自が定めた目標に向けて意欲的に取り組めたか。 また、各クラブの活躍を、学校内外に広く伝え、活動の励みにすることができたか。	A	バレー部は北信越大会に出場して決勝トーナメントに進出し、15年ぶりにインターハイへの出場を果たした。また、春高バレー全国大会も15年ぶりに出場を果たした。また、軟式野球部は長野県大会で優勝し、4年ぶりに北信越大会に出場して準優勝した。ラグビー部も長野県大会で優勝し、北信越大会に出場して準優勝した。電気部はロボコンin信州の各部門に出場し、ロボット相撲部門、マイコンカーラレー部門で優勝した。大会結果等は生徒会誌にも載せ伝え、各新聞にも取り上げられてもいる。	A
学校運営	教務	より良い学校運営	各係、委員会等との組織的な連携を図り、効率的な業務の推進に努めたか。 学校全体のバランスを見据え、諸行事の計画および実施において、より良い学校運営に努めたか。 新型コロナウイルス感染症に対して適切な学校対応をおこなうことができたか。	B	新型コロナウイルス感染症拡大による年間計画の変更や分散登校、オンライン授業への急な対応に対して、教務係を中心に各係や委員会等と組織的な連携を図り、円滑な学校運営に努めた。 綿密な計画のもと、職員会議で早めの提案および質疑を行うことで、職員間の意思疎通が高まると共に、適切な支援とサポートを行うことで、大きな混乱もなく学校運営を行うことができた。	A
		地域に開かれた学校づくり	学校要覧、学校案内、学校パンフレット等を利用して、学校の魅力と特徴を発信し、地域にアピールすることができたか。 体験入学、学校見学等により、地域の中学生や保護者に対して、本校の教育活動を正しく理解してもらうことができたか。	B	ホームページの管理と充実、学校パンフレット(1500部印刷)の有効利用等、随時積極的な情報発信に努めた。7月に行った体験入学(見学)では、中学生と保護者で290名を超える参加があり、アンケート結果からも好評であった。新型コロナウイルス感染症の拡大により、9月に予定されていた体験入学(体験)は急遽中止となったが、10月の公開授業には132名、12月の入学者選抜説明会およびクラブ見学会には149名に参加いただき、好評であった。	A
		入学者選抜業務	入学者選抜説明会等を利用して、本校と募集の観点に沿った適切な説明を行うことができたか。 前期選抜および後期選抜ともに、綿密な計画のもとに、的確な選抜業務を行うことができたか。	A	10月の入学者選抜説明会では、本校に入学実績のある18校の中学校の進路担当または担任の先生にご参加いただいた。質疑応答では多くの質問があり、中学校の先生方からは高評価であった。また個別の中学校訪問を行った。12月に実施した入学者選抜説明会およびクラブ見学会(中学生・保護者向け)では、学校のアピールや入試概要の説明、クラブ見学会を行い、アンケート結果から高評価であった。 新型コロナウイルス感染症への対応や面接試験の方法・評価について綿密な計画を立て、適正な入学者選抜に備えている。	A